

活動報告書

報告者氏名: 渡辺 未央

所属: 茨城県立水戸特別支援学校

記録日: H25 年2月21 日

【対象児(群)の情報】

- 学年 中学3年生
- 障害名 先天性体幹機能障害
- 障害と困難の内容
準ずる教育の課程。
車いすで活動している。

自分の考えを求められる場面では、考え込んでしまったり、自分の考えを構築したりすることが難しい。感想、作文課題など自分の考えを求められる課題に苦手意識をもっている。聞いたことがあるが意味を理解していない言葉や、言葉では知っていても実際に見たことがないものがあったり、言葉から場面を想像しにくかったりすることがある。日常生活の中では自分から発信するよりも聞き役になることが多い。

【活動目的】

- 当初のねらい ①自分の考えを整理して、自信をもって表出する方法を得る。
②自己解決の方法を得ることで、主体的に活動する。
- 実施期間 7月～2月現在
- 実施者 渡辺 未央
- 実施者と対象児の関係 教科担当(国語)

【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児(群)の事前の状況:

①感想発表や作文を書く場面では人前で発表するまでや実際に書き始めるまでに時間がかかったり、字数に届かず空白のまま提出したりしていた。友達の意見をヒントに思いを伝えたり、いくつかの言葉は出るが整理がつかない様子が見られていた。

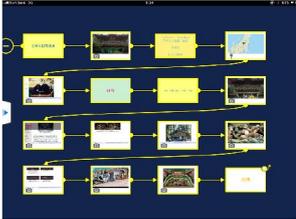
②「○○とは何ですか。」という言葉に関する質問が多い。教師か、クラスの友達が答えたり、辞書を使って調べるよう促したりしていた。その言葉の意味の中にさらに分からない言葉があった時に、教師には聞くが、友達に聞いたり、さらに辞書を使って調べたりするという事はなかった。また、俳句の中に出てきた自然や植物など見たことのないものが多くあった。

○活動の具体的内容

①「考えを整理して伝えよう」

伝える相手を意識しながら、情報を整理して、表現することを目的としている。授業の終わりに短時間を設け、継続的に行った。

意欲的に取り組むことができるよう、テーマは本人が興味をもってよくテレビや写真を見たり、話題にしたりする「世界遺産」について調べ発表することとした。

	活動内容	使用したアプリ等
1	情報収集 ①アプリ「Yahoo! あんしんねっと」を利用し、調べたい事柄を探す。(※セーフティーモード(中学生用)を設定。) ②スライドに記事を「スクリーンショット」で撮影し画像として保存。資料として集めた。	
2	編集 ③アプリ「ロイロノート」で編集を開始。(ロイロノートは一画面上にスライドを全て表示できたり、順序を入れ替えることが容易であるため、今回のねらいに適していると考えた) ・iPadの「写真」に保存してある画像をロイロノート上にアップロードする。 ・資料を一画面上にアップする。 ・使用するもの、しないものを精査する。 ・発表したい順番につなぎ合わせる。 ・スライドを流す時間、アニメーションなど工夫する。	 
3	発表 プロジェクターにつなげ、クラス内で発表する。	iPad カメラ
4	推敲 お互いの良かった点や改善点を話し合い、次回につなげる。	

②「知りたいことを自分で調べる経験を積もう」

授業中にiPadを手元に置き、教科書の文中に出てきた意味を理解することが難しい言葉や見たことのないものをアプリ「Yahoo! あんしんねっと」で調べた。

○対象児の事後の変化

①考えを整理して伝えよう。

活動時期	活動内容	○良かった点 ●改善点
7月	スライド4枚。 テーマ「世界遺産について」 	●情報量が多く、世界遺産の何を調べるか焦点化されておらず、様々な情報を読み取ることで精いっぱいだった。様々な世界遺産を紹介するのか、一つの世界遺産について調べるのか、など、クラスの友達に何を伝えたいかを検討する必要がある。
10月	スライド23枚。 テーマを「世界遺産について」から世界遺産の一つである「日光東照宮」を調べることにした。	○テーマを絞ったことで情報収集がしやすくなり、情報収集が早くなった。また、実際に自分が行ったことのある場所だったので意欲的に、伝えたい内容が膨らんでいった。 ●ロイロノート上に情報を一覧にすると、伝えたい内容が多すぎることに気付いた。さら

		に情報量を絞っていく必要がある。
12月	スライド10枚。 「日光東照宮の彫刻について」とさらにテーマを絞った。 <発表1回目>	○テーマを絞ったことでスライドが整理され、伝えたい内容がまとまってきた。発表する順序を検討し、並び替えていた。 ●スライドが写真のみであるため、特に強調したい部分が、友達の印象に残らなかった。文字で示すことを検討する。 ○友達の発表の中に「○○を知っていますか」と疑問形で投げかけてくる発言があり、「こうやって注目させるんですね。」と発表の仕方に着目していた。
1月	スライド14枚。(写真10枚, 文字カード4枚) <発表2回目> ・日光東照宮の彫刻の数「5173」や彫刻の種類「人物・霊獣・動物・花鳥・地紋」のみをスライドで表示。	○注目してもらいたい部分を口ではなく文字に表して伝えることにした。キーワードをスライドに組み込んだことで「何の数字？」と友達に関心をもたせたり、「彫刻の種類がわかりやすかった。」と言われたりした。 ○また、「彫刻」の話だけでなく初めに日本の世界遺産の数、日光東照宮は関東唯一の世界遺産、などの全体的な情報を付け加えたことで、「初めて知ったよ。」と言われた。
2月	スライド16枚 <発表3回目>(写真10枚, 地図1枚, 文字カード5枚)発表の場に友達の他に教師1名も参加。	○地図を取り入れたり、画像にアニメーションを入れたりするなど、さらに工夫をしていた。スムーズに発表することができた。 ○教師から「伝える相手のことを考えて作られているね。」と称賛された。

②「知りたいことを自分で調べる経験を積もう」(7～2月現在)

	生徒の様子
iPad 導入時	・iPadがあっても言葉の意味について質問することがあったので、自分で調べるように促した。iPad操作に慣れるまでは、1時間に1つか2つ意味を調べて終わっていた。 ・友達から「この意味わかる?」「調べてみる?」などいわれて、同じタイミングで調べ始めていた。
iPad 活用後	・分からないことがあったら自分からiPadを使い調べ始めるようになった。キーボードを50音順からアルファベットにしたことで作業スピードが上がり調べる言葉の数が増えた。また言葉の意味を調べてさらに分からない語句が出てきたら、その語句を調べ、「わかる」まで調べるようになった。 例:「遭遇」とは何か? 不意に出会うこと。偶然にめぐりあうこと。 →不意とは何か? 「不意」…思いがけないこと、突然であること。

→「遭遇」とは思いがけず出会うこと。
・語句だけでなく画像を調べ、俳句や作品の理解につなげていた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ①伝わる喜びを実感できた→自分の考えを整理したことで自信をもって発表することができた。「初めて知ったよ。」「わかりやすかったよ。」という相手からの反応があることで、伝わる経験を積んだとともに、伝えようとする意欲が出てきた。
- ②自己解決の手段を身につけた→人に聞かなくとも、自分で疑問を解消し、自分で学ぶことができた。
- iPad が、自分の考えを整理して人に伝え、分からないことを解消する一つのツールとなり、主体的に行動する場面が出てきた。(その他のエピソードにも記載)

○エビデンス

- ①発表した後には必ず友達のコメントを元に修正したり、友達の発表の仕方にも注目したりするようになった。
- 感想発表や作文課題の場面で否定的な発言(「え〜。」「いやだなあ。»)がなくなったり、「ロイロノートを使って他の場面でも発表したい」と話すなど、伝えることに意欲的な姿勢が見られるようになった。また、1学期には字数が足りないまま提出していた作文課題だが、2学期以降は空白を作らずに指定字数を埋めることができた。
- ②教師に質問することなく、自分が疑問の思った時に言葉や画像を調べるようになった。

○その他エピソード

「ロイロノート」を使った他の場面での活用→卒業生を送る会

「3年生の出し物で合唱をする際に中学校3年間の思い出をスライドにして流してはどうか。」と学年の友達に提案。採用されると、

○スライドに使う写真の選択を学年の教師に依頼

○iPad を家に持ち帰りたいと私に依頼

○曲がピアノの生演奏のため、スライドの時間を合わせるのが難しい。音楽担当の教師に「リハーサルをしてください」と依頼。

○いつもは友達の意見を尊重することが多いが、写真の量や、スライドの長さなどを友達に提案。また、友達の意見を聞いたうえで自分の意見を主張することもあった。

と、自分から行動を移す姿が多く見られた。

実際に発表を終えた後に発表の様子を見ていると、4秒曲とのずれがあった。見ている側としては違和感がない程度であったが、「悔しい。」「もっとうまくできたはずだ」と後悔するほど、伝えることに意欲的にこだわりをもって活動できた。